

めざす子ども像

やさしさとたくましさをもち、

未来をきりひらく子どもの育成

「確かな学力」と「豊かな心」をはぐくむことをめざす

取組目標

学校が大好きで、ふるさとが大好きな都跡の子どもを育てる。

今年度の取組紹介

- ・今年度も読書大好きな子どもたちを育てる工夫をしました。

読み聞かせはこども園のみの実施でしたが、図書ボランティア用のピンク色のエプロンを作成し様々な作業を行いました。司書の方と一緒に小・中学校では引き続き蔵書整備に取り組み、本を選びやすく、誰もが来ようと思う図書室になるようにしました。壁面装飾の他、図書室企画として中学校では短歌作品の募集や文芸委員の生徒たちとの牛乳パックでのブックスタンドを作りました。



- ・地域で子どもたちを見守る取組としては、コロナ禍で校区の唐招提寺への園外保育や平城宮跡への遠足となった園児児童の行程に付き添いました。

恒例の小学4年生平城宮跡オリエンテーリングは無事に実施され、学習サポートをすることが出来ました。



- ・毎回コーディネーター会議に参加する公民館館長と共に公民館主催の「みあときつずチャレンジ隊」等の子育て活動に協力しました。この活動には、現在、地域の中学校を卒業した大学生たちがボランティアとして子どもたちの活動をサポートしてくれています。

今年度のまとめ

- ・各事業に多くのボランティアが参加していただいているが、図書ボランティアの増加が今年度みられました。ボランティアがお揃いのピンクのエプロンを着用することで、子どもたちもすぐに気付いて、気軽に話しかけてくれるようになりました。

- ・地域との共同開催の事業はできませんでしたが、園児・児童・生徒との交流は例年よりも多く持つことが出来ました。

来年度に向けて

- ・現在行っている広報活動を継続して行います。年に1度の広報紙のほかに、学期ごとに発行するボランティアの募集案内には、実施した活動報告を掲載します。ボランティア募集ポスターを現役世代の保護者の方の目につきやすい場所に掲示します。

- ・今年度出来なかった、各校園教職員との交流会を開催し、都跡中学校区の協議会への理解を深めてもらいます。

- ・地域教育協議会で作成した四神をデザインした赤のTシャツを様々な活動で着用し、他団体にも働き掛け、色違いTシャツという目に見える形でも子どもたちを見守っていきます。

めざす子ども像

**やさしさとたくましさをもち、
未来をきりひらく子どもの育成
「確かな学力」と「豊かな心」を育むことをめざす**

取組目標

人を愛する心や学校・地域を愛する心を育てる
地域で育つ中学生として、地域の一員としての役割をこなせる
子どもの育成

【今年度の取組紹介】

- 毎年生徒たちも楽しみにしている植物の栽培活動。本校の目玉でもある「ゴーヤカーテンづくり」はコロナウイルス感染症の影響により実施を見送ることになってしまいましたが、『みあと農園』には地域の方々のご協力やご指導の下、「サツマイモ」や「タマネギ」を栽培し、また、花壇やプランターには多くの花を植え付けて育てることができました。日々の世話は「いきものがかり」が中心になって水の世話などを行いました。



- 読書推進事業では、地域コーディネーター・ボランティアの方々と市の図書館司書の方がほぼ週1回のペースで来ていただくようになり、図書室の環境整備や書籍管理を行っていただいています。文芸委員が図書室開放を運営する際に役立つバーコード操作や分類ラベルの意味と整理の仕方などについての生徒向け勉強会をしていただいたり、生徒たちが多くの本との出会いが持てるよう階段踊り場への掲示物にたくさんの工夫をしていただいたりしました。



【今年度のまとめ】

コロナウイルス感染症の影響により、今年は様々な制限がある中でも無理なく活動できそうな取組を模索しての実施が多くなりました。生徒と地域の方々が協働して行う「みあと農園」「みあと花壇」はじめとする栽培体験活動が取組の中心になりましたが、地域の方々と触れ合う機会を多く持ち共に活動ができました。昨年度から活動をスタートさせた「いきものがかり」を中心にボランティア参加の輪も広まり、地域活動に積極的に参加する姿が増えてきました。多くの生徒の地域に対する理解や関心が高まり、活動を通して自分たちの学校をきれいにしていく美化意識の向上や地域の方との協働につなげることができました。

【来年度に向けて】

- 協議会でやっているコーディネーターやボランティアの募集活動の協力ができるよう、中学校での支援事業を中心に、学校HP等での発信にも力を入れ、よりたくさんの保護者等にも周知していきたいと思います。
- コロナ感染状況の情勢に左右される心配はありますが、今年度できなかった小中合同でのコーディネーターとの交流会を実現し、小学校で行われている支援事業も参考にしながら中学校での新たな支援事業を考えていきたいと思います。

めざす子ども像

やさしさとたくましさをもち、未来をきりひらく子どもの育成**「確かな学力」と「豊かな心」を育むことを目指す**

取組目標

世界遺産のあるまち**都跡で暮らし、都跡を学び、都跡を誇れる児童の育成**

【今年度の取組紹介】

○ 平城宮跡オリエンテーリング

毎年4年生が平城宮跡歴史公園内を地域のボランティアの方々の協力を得ながらオリエンテーリングをしています。

今年度は例年より活動時間を延ばし、平城宮跡のさまざまな場所を歩いて回りました。チェックポイントでのクイズ問題を子どもたちは自分で考え、ボランティアの方々に渡し、出題者になっていただきました。自分たちの校区にある世界遺産をより感じる事ができた1日になりました。



平城宮跡オリエンテーリング

○ 学校図書館支援事業

子どもたちが本にふれる機会をふやそうと、地域コーディネーターや図書館司書の方を中心に数多くのボランティアの方々が学校図書館の環境整備や本の整理を行っています。今年度は読み聞かせ活動ができませんでしたが、日本地図のパズルや手作りの福笑いなど、本の紹介だけでなく、選書から関わっていただいた本に関連した様々なものをつくって学校図書館へ子どもたちが足を運びやすいように工夫していただきました。



図書ボランティアの様子

【今年度のまとめ】

- コロナ禍の影響により、多くの活動が中止または形態を変えての実施となりました。そのなかでも地域の方々は、「子どものためなら」とか「子どもと一緒にいると元気をもらえる」と考え、できることは何かを考え、様々な場面で学校に協力してくださっています。そしてこのような情勢の中でも図書ボランティアや家庭科学習支援など、新たにボランティアを志望してくださる方も多くいらっしゃいました。教職員や子どもたちは、このような地域の方々の温かい気持ちに実際に触れることで、地域の方々の思いを知ることができたと思います。こうした地域の方々と子どもたちが一緒に活動する場面が増えるよう、各活動の実施方法を検討していきたいと思っています。

【来年度に向けて】

- 今年度はコロナ禍の中での臨時休校や行事の中止があり、「今まで通り」が通用しない1年でした。そのような中でも今まで築き上げた「子どもたちから地域の方々が見える」「教職員から地域の方々が見える」という関係を大切にしながら、地域の方々と子どもたち・教職員がつながる場面を確立・拡大していきたいと考えています。

めざす子ども像

やさしさとたくましさをもち、
未来をきりひらく子どもの育成
「確かな学力」と「豊かな心」をはぐくむことをめざす
地域とのつながりの中で
みんなで遊びを創る笑顔があふれるこども園をめざす

取組目標

今年度の取組紹介

○ 本物に触れる体験事業

今年度の遠足は交通機関を利用することが出来なかったため、より地域を知る機会に出来ればと考え、遠足の行き先を平城宮跡としました。

例年園外保育として出掛けている場所ですが、遠足として十分な時間を確保し、多くの地域の方に付き添って安全を見守っていただき、より地域の方と触れあい親しみを感じる機会となりました。そして秋の自然を肌で感じながら、奈良の鹿に届けるためのドングリを地域の方と集めることが出来ました。また唐招提寺での園外保育においても地域の方に付き添っていただき、一緒に絵本に登場する『隅鬼』を境内で探したりお寺の方から仏様の話を聞かせていただいたりしました。子どもたちがお寺の方に積極的に質問する姿がみられ、5歳児はそれらの経験から、友達と想像力を働かせ、イメージを共有して『みあとのだいぼうけん』の話を創りあげていきました。その作品を「作品展」を通して保護者や地域の方に見ていただき、取り組む過程を伝えていくことで共感していただき子どもたちの達成感や満足感につながりました。



○ 読み聞かせ事業

地域の方による絵本の読み聞かせ『わくわく絵本タイム』は、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ10月より在園児と未就園児に、実施しました。地域の方は距離を取っても見やすいように大型絵本を使用したり、読み手の表情が良く見えるようフェイスシールドを利用したりする等、感染対策を講じながらも子どもたちが読み聞かせの楽しさをより感じられるように工夫してくださいました。子どもたちは、この時間を期待し、よりお話しに興味をもつと共にいろいろな方と関わりをもつことができました。



今年度のまとめ

- コロナ禍で例年通りの交流の形ではなかったですが、内容を吟味し、地域の方と相談しながら本物に触れる体験・読み聞かせ・栽培活動等に取り組みました。様々な制限がありましたが今年だからできることは何か、地域、保護者と共に、あきらめず考え実施することで、地域の方を身近な存在と感じ、感謝の気持ちや思いやりの心を育むことにつながりました。

来年度に向けて

- 『みんなで遊びを創る笑顔があふれるこども園』を目指し、子どもたちにとって豊かな経験となるよう、感染対策を講じながら定着している活動を継承していくと共に、さらに内容を見直し出来ることを考え、地域・保護者との連携を深め、教育・保育を充実させたいと思います。